

プラズマ・核融合学会誌

第94巻第2号

2018年2月

解 説	太陽ダイナモを起点とした黒点形成とフレア爆発への物理過程 西塚直人, 堀田英之, 鳥海 森	51
小 特 集	電気推進ロケットエンジン技術の現状と展望 1. はじめに 田原弘一	58
	2. 電気推進ロケットエンジンを用いたミッションの現状と今後 西山和孝, 杵淵紀世志	60
	3. 将来ミッションに向けた電気推進ロケットエンジンの現状と課題 3.1 電熱加速型推進機 田原弘一	66
	3.2 静電加速型推進機 山本直嗣, 渡邊裕樹	71
	3.3 電磁加速型推進機 安藤 晃, 高橋和貴	76
	4. 電気推進ロケットエンジン技術の他分野への応用 桃沢 愛	81
講 座	今日からはじめる Python 1. はじめに 吉沼幹朗	86
	2. Python スタートアップガイド 藤井恵介	90
インフォメーション		102
	幅広いアプローチ活動だより(71)	
	ITPA (国際トカマク物理活動) 会合報告(63)	
	【会議報告】The 70th Gaseous Electronics Conference (GEC) / 第18回核融合炉材料国際会議 (ICFRM-18)	
	LHD における重水素実験の開始と今後の展望	
Plasma & Fusion Calendar		112
本 会 記 事		114
	第12回核融合エネルギー連合講演会一般講演の募集 / 第35回プラズマ・核融合学会年会の実施について	
編 集 後 記		

表紙の絵

(a) ダイバータ模擬装置 NAGDIS-II において入射イオンエネルギーにパルスを重ねたヘリウムプラズマ照射実験を行った。入射イオンエネルギーが定常時には 7–8 eV でパルス重畳時には 50 eV 以上とした。(b) 通常の非パルス照射では綿毛状のナノ構造形成に必要な入射イオンエネルギーは 20–30 eV 以上であるが、パルス照射下では 7–8 eV のヘリウム照射が綿毛状のナノ構造タングステン形成を増進することが明らかになった。(c) ただし、温度が 1300 K となるとアニーリングの効果によりナノ構造の形成が抑制された。(Shin KAJITA *et al.*, Plasma and Fusion Research, Vol.13, 1205001 (2018) <http://www.jspf.or.jp/>)

【複写をされる方へ】本学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しています。本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、企業等法人による社内利用目的複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター(社)学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はありません(社外頒布用の複写については許諾が必要です)。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 3F Tel: (03) 3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作物の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託しておりません。直接当学会へお問い合わせください。